

E Aさんへのインタビュー (no. 088)

(1) 対象者

E Aさん
同志社大学法学部 4 回生の男性
高校時代の先輩
合計 100 社以上にエントリー
物流やメーカーなどの計 6 社に内々定

(2) インタビュー

就職活動前の準備段階ではどんなことをやりましたか？

E Aさん「自己分析や業界研究は少ししかやらなかった。自己 PR などは場数を踏んで手ごたえを感じたものを使っていった。業界研究は企業のホームページを見て、その企業が取り組んでいることや力を入れていることを探した。」

SPI 対策は？

E Aさん「本は買ったけどほとんど勉強しなかった。でも筆記で落とされたことはあまりなかった。」

どんなタイプの筆記試験がありましたか？

E Aさん「国語、数学がほとんどで英語がときどきあった。小論文を書くということとはほとんどしなかった。性格判断が多かった。」

面接について、どんなタイプの面接がありましたか？

E Aさん「個人面接や集団面接はもちろん、グループディスカッションもあったけど 8 割ぐらいは個人面接だった。変わった面接を挙げるとすれば、集団面接で開始後 10 分ぐらいしてから『隣の人の紹介をしてください。』といった面接があった。」

自分を他の人と比べて、ここはがんばったと思えるところはどこですか？

E Aさん「とにかくエントリーシートをたくさん書いた。内容の基本は同じで、企

業によって多少アレンジを加えるといった方法で書いた。」

では逆に、ここは失敗したなと思うところはどこですか？

E Aさん「業界研究や企業研究をもっとやっておけばよかった。面接で突っ込まれて困ることがあったから。」

(3) まとめ

E Aさんはとにかく数をこなして内々定をもらっていました。実際に面接官と話をして食い付きがいい話題を次の面接で使うといった方法を編み出していました。逆に業界研究はやっておいたほうがいいよと念を押されました。これだけの場数を踏んでいる人の意見はすごく参考になりました。

EBさんへのインタビュー (no. 089)

(1) 対象者

EBさん
同志社大学商学部5回生の男性
クラブの先輩
サービス業中心に15社にエントリー
サイゼリヤに内定

(2) インタビュー

就職活動前の準備段階ではどんなことをやりましたか？

EBさん「SPI対策に力を入れた。会社説明会にも可能な限り参加した。逆に自己分析は一切やらなかった。」

自己分析なしで大丈夫だったのですか？

EBさん「自分のやりたいことは前から決まっていたし、自分の強みはこれだという軸もあったから。改めて自己分析をする必要もなかったから。」

会社説明会はどうでしたか？

EBさん「その業界を肌で感じるのが重要だと思っていたし、説明会と一次選考がセットになっている場合も結構あった。説明会にたくさん行って、その会社の社風などが分かったのが良かった。」

筆記試験はどのようなものがありましたか？

EBさん「SPIと適性検査のセットがほとんど。時事問題と一般常識なんかもあったけど、一番変わっていたのは30分ひたすら数列を解く試験。」

面接について、どんなタイプの面接がありましたか？

EBさん「個人面接がほとんど。」

サービス業中心ということで圧迫面接などにも遭われたのでは？

EBさん「部屋に入って最初に自分の短所を行ってくださいから始まり、言うこと全部否定されたりした。キツイからウチでは君は続かないと思うよとか普通に言われる。」

自分を他の人と比べて、ここはがんばったと思えるところはどこですか？

EBさん「上手くやったのは面接。軸をぶらさず最初から最後まで言い通すことはかなり重要なこと。それをやったことで誠実さをアピールできたと思う。」

では逆に、ここは失敗したなと思うところはどこですか？

EBさん「業界を絞りすぎたと思う。持ち駒がどんどん減って行って途中でかなり焦った。もっと広い範囲で考えたほうが良かったと思う。」

最後にこれから就職活動をする後輩に何かアドバイスを

EBさん「嘘は絶対にダメ。選考が進んでいく中で必ずぼろが出ます。能力も資質も大事だと思いますが、企業は第一条件として誠実な人間を求めていると思います。ありのままの自分をぶつけ、様々なことを経験していくことで、それが自らの肥やしになっていくと思います。決してあきらめないで頑張ってください。」

(3) まとめ

EBさんは一昨年度の馬術部の主将をされていたこともあって、かなりしっかりとした信念をもって就職活動に取り組まれていたことが伝わってきました。しかし、サービス業だけに業界を絞りすぎ、15社しかエントリーしなかったことで、かなり焦りがあったということです。余裕がなくなると面接でも力んでしまい思ったことが伝えられなかったりするのではないのでしょうか。自分のやりたいことを絞り込みすぎるのではなく、広い視野をもって企業を選ぶことも重要だと思いました。

ECさんへのインタビュー (no. 090)

(1) 対象者

ECさん
同志社大学社会学部メディア学科5回生の男性
クラブの先輩
メーカー中心に30~40社にエントリー
洗剤メーカーに内定

(2) インタビュー

就職活動前の準備段階ではどんなことをやりましたか？

ECさん「就職活動前には特に何もやらなかった。自己分析や業界研究は就職活動しながら継続的にやっていた。」

会社説明会などには参加しましたか？

ECさん「1日1社のペースで回った。合計で50社は回った。」

筆記試験はどのような形式でしたか？

ECさん「大企業はWebテストばかり。SPIとグラフを見て次年度の売上を推定するようなものが半々ぐらいの割合で出た。英語は3割程度。中小企業は説明会と一緒に筆記試験があって、マークシート形式だった。」

難しいと感じましたか？

ECさん「大学入試よりはやや簡単という感じだった。勉強していないときついと思う。英語力を求められるような会社は英語が難しい。」

面接について、どんなタイプの面接がありましたか？

ECさん「個人と集団は7:3ぐらいの割合。」

グループディスカッションはありましたか？

ECさん「4社あった。リーダーを決めるようなことはせずに、一番に発言した人がリーダーになるような暗黙の了解があった。自分はまとめ役のようなポジションになって、自分が苦手な役を他人に割り振ったりした。グループディスカッションの後はプレゼンテーションをして議論の内容を発表するという流れ。」

自分の就職活動でここは失敗したなと思うところはどこですか？

ECさん「大企業ばかり受けていて、全然内定をもらえなかった。」

最後にこれから就職活動をする後輩に何かアドバイスを

ECさん「とにかく色々な会社をみる。企業の規模にもこだわらずに。説明会では興味がなくても話を聞く、質問できるような機会があれば必ず活かすこと。」

ECさん「あとリクルーター面接というのがあった。新日鉄とか住友金属とか。会社側から電話がかかってきて、選考とは関係ないと言いながら、喫茶店などで食事しながら会社の人事の人と話す。とは言っても普通の面接と一緒に。印象が悪ければもう電話はかかってこない。選考のつもりで行ったほうがいい。」

(3) まとめ

ECさんはいわゆる「就職留年」をしています。毎朝コーチとして練習を見に来てもらっていたのですが、やはり就職活動は忙しそうでした。内定がもらえないなら、就職留年という手もありますが、授業料も払わなければいけませんし、気軽にできるものではないので、最終手段というような認識でいたほうがいいと思います。

EDさんへのインタビュー (no. 091)

(1) 対象者

EDさん
京都大学農学部 4 回生の男性
高校時代の先輩
商社に絞って 6 社にエントリー
現在は大学院を目指して勉強中

(2) インタビュー

就職活動前の準備段階ではどんなことをやりましたか？

EDさん「自己分析は就職活動の支援 Web サイトや周りの友人に自分の長所や短所を聞いたりしてやった。業界研究もやったし、合同説明会にも行った。」

エントリーシートはどのように書きましたか？

EDさん「自己 PR は基本的に同じことを書いたけど、会社によって文字制限が違ったりするので言い回しを変えたりはした。志望動機は企業の会社案内に載っているポリシーを参考にした。」

筆記試験はどのような形式でしたか？

EDさん「SPI とは少し違った。英語と国語と計数だった。時事問題はなかった。英語は会社によって難易度が様々。計数というのは表やグラフを読み取るような問題。適性検査はエントリーシートと同じタイミングであった。」

難しいと感じましたか？

EDさん「難しいとは感じなかったけれど、SPI の勉強だけしていれば良いというわけではないと思う。」

面接について、どんなタイプの面接がありましたか？

EDさん「就職活動は途中で止めたから、だいたい個人面接。」

自分の就職活動で他人より上手くやったと思えるところはどこですか？

EDさん「就職活動に必死ではなかったので、就職活動に追われて他のことができなくなるというような事はなかったし、それは良かったと思う。」

逆に、ここは失敗したなと思うところはどこですか？

EDさん「『こういうことがしたい！』ということを一気に絞らなかった点。アピールするなら一貫性を持たせたほうが良いと思う。」

最後にこれから就職活動をする後輩に何かアドバイスを

EDさん「資格があると便利。あとOB訪問はやっておいて損はない。面接時の話のネタにもなる。コネができるというのは期待しないほうが良いとは思いますが。あとはメールや企業のWebサイトをこまめにチェックする癖を身につける。インターンシップや会社説明会は、人気があるところでは1時間もすれば定員一杯になってしまう。」

(3) まとめ

EDさんは最初から、大学院に行くことも視野に入れて就職活動をされていたようで、実際に受けた会社も6社だけでした。しかし、面接が早いマスコミをわざと受けて予行演習をするなど、計画的に就職活動をされていたようでした。理系だから大学院、文系は就職というような偏見を持つのはよくないとは思いますが、理系と文系で企業のニーズが違うこともあるようなので、EDさんと同じようにはいかないだろうというのが率直な感想です。

EEさんへのインタビュー (no. 092)

(1) 対象者

EEさん
同志社大学商学部4回生の男性
クラブの先輩
JRAと京都銀行の2社にエントリー
JRAに内定

(2) インタビュー

就職活動前の準備段階ではどんなことをやりましたか？

EEさん「特に何も。自己PRとかは最初からハッキリしていたし、それに就職できないなら留年してもいいと思っていた。」

留年してもよかったのですか？

EEさん「就職難で、単位も卒業に足りるか微妙だったし、自分の先輩にも就職留年している人はいたし、友達にはやばいって言われたけど、そんなに危機感はなかった。」

面接はどのような形式でしたか？

EEさん「4、5人の集団面接が何回かあった。最初は近畿圏内で、最終面接は東京であった。」

いやな質問はありましたか？

EEさん「あげ足をとるような質問はいくつかあった。でも、そのたびに臨機応変に対応できたと思う。」

自分の就職活動でここは失敗したなと思うところはどこですか？

EEさん「自分の就職活動はすごくうまくいったほうだと思うので、失敗した点は特に思い当たらないけど、エントリーが少なかったとは思う。」

最後にこれから就職活動をする後輩に何かアドバイスを

EEさん「面接に挑むうえで必要なのは、ひとつひとつの質問に対する回答ではなくて、自分の考えをひとつにまとめておくこと。作文をするような感覚で、志望動機や自己PRを書いてみるといいとおもう。自分の考えを自分がきちんと理解していれば、変な質問にも対応できると思います。」

(3) まとめ

EEさんは、この就職難の時代にあって非常にラッキーな例だと思います。京都銀行は、初期の段階で落とされてしまったようですが、JRAの方は、馬を取り扱うような仕事で、完全な総合職とは少し違うようです。これまでの馬術の経験が活かたのでしょうか。会社選びがうまくいった、と言えるかもしれません。

EFさんへのインタビュー (no. 093)

(1) 対象者

EFさん
同志社大学商部5回生の女性
クラブの先輩
30~40社にエントリー
NTTに就職

(2) インタビュー

就職活動前の準備段階ではどんなことをやりましたか？

EFさん「合同説明会などにはできるかぎり参加した。」

自己分析や企業分析は？

EFさん「自己分析は就職活動をやっていく過程でやった。エントリーシートを書いたり、面接を実際に受けたりすることが自己分析をやりながら、という感じだった。」

変わった面接はありましたか？

EFさん「玩具を作っている会社を受けた時に、面接官の前にフィギュアが並べてあって、どのフィギュアが好きか聞かれるような面接があった。」

(あまりフィギュアなどには興味がなさそうですが) どう対応しましたか？

EFさん「かろうじて知っているアニメのフィギュアがあったので、そのアニメが大好きだと言った。」

それでうまく切り抜けることができたのですか？

EFさん「面接官だってアニメのことは詳しくないだろうと思っていたが、突っ込まれて苦しくなった。」

面接官もアニメに詳しくったのですか？

EFさん「今思えば面接官をなめていたと思う。相手はプロなので自分の作っているもののことを知らないなんてありえない。自分が甘かった。」

では、成功したと思う点は？

EFさん「面接ではとにかく話すようにした。自分の知らない話題でも食らいついて行った。何もしゃべらないよりは何かしゃべった方が絶対プラスになると思っていたから。」

最後にこれから就職活動をする後輩に何かアドバイスを

EFさん「企業分析一つにしても、会社のポリシーや業界で何番手とかだけじゃなくて、何を作っているか、何に使われているか、自分たちの生活にどう関わっているかとかまで把握しておく必要がある。時間がないからそこまでは無理かもしれないけど、第一志望の会社ぐらいはそこまでしても損はないと思う。」

(3) まとめ

EFさんは、2回生の夏から入部したという変わった経歴の持ち主です。非常に前向きな性格で、会話作りも得意な人なので、面接ではそれがいい方に転んだのだと思います。ただ、自分の知らないことを、嘘をついてまで知っているように装うのは、墓穴を掘ることになるしマイナスだとおっしゃっていました。知らないことは知らないという勇気も必要だと学んだそうです。

EGさんへのインタビュー (no. 094)

(1) 対象者

EGさん
関西大学の4回生男性
クラブの先輩の友人
40社前後にエントリー
メーカーに内定

(2) インタビュー

就職活動前の準備段階ではどんなことをやりましたか？

EGさん「会社説明会には可能な限り参加した。そこで自分自身の将来像を変更した。」

具体的にどのように変更したのですか？

EGさん「自分は理系だから、研究職や開発職に就きたいと思って参加したのだけれど、そこで営業を勧められた。営業は物を売りつける仕事だと思っていたので、最初は断ったけれど、話を聞いてみると、必要なものがなくて困っている人や、さらに良いものを求めている人に対して、その望みがかなうように貢献するのが営業の仕事だと言われて、目からウロコだった。それなら自分にもできると思った。」

自己分析などは？

EGさん「知り合いや家族に自分の長所や短所を聞いて回ったり、エントリーシートなんかは兄に読んでもらったりした。」

効果は得られましたか？

EGさん「エントリーシートは兄に見せてダメだしされるたびに書き直した。最初は『わかりにくい』と一言でつき返されたりして腹が立ったけれど、それなら文句を言えない程完璧なものを書いてやろうと意地になってやった。それが良くて面接の時も、エントリーシートに関することや自己PRはスムーズに受け答えできたと思う。」

面接はどうでしたか？

EGさん「かなり突っ込まれた時もあった。自分は業界分析や企業分析が甘かったので、そういった質問は答えづらかった。」

切り抜けられましたか？

EGさん「最後には割り切って、知っていることだけを正直に話そうと思った。会社に関する事なんかはデータを暗記して面接に臨んだりもしたけれど、思い出しながら話すなんて、簡単じゃないし表情にもでる。そんな事より、自分の興味のあることを開き直って話すようにした。」

最後にこれから就職活動をする後輩に何かアドバイスを

EGさん「就職活動に終わりはありません。途中で志望動機が変わるとか、志望業種が変わるとか、あっても不思議ではありません。途中で満足して後悔することがないように。僕は後悔していませんよ。」

(3) まとめ

EGさんは初めてお会いした方なのですが、親切にインタビューに応じてくださいました。会社説明会で大きな変化を体験されていました。就職活動前と就職後ではイメージにギャップもあるということだと思います。会社説明会などではそのギャップをうめるチャンスもあるのだと思いました。